保育職に対する意識調査（第2報）

――4年制大学保母資格取得希望学生の調査――

柳澤　緑・柏瀬愛子

A Research on Occupational Consciousness of Specialists in Nurture (Part Ⅱ)

M. YANAGISAWA and A. KASHIWASE

はじめに

幼児教育の重要性が日々問われている今日，教育に携わる保育者の質の向上が望まれている．保育者養成制度の向上には厚生省，および厚生省後援の全国保母養成協議会などの団体がセミナー，研究会をもち回を重ねて研究討議し，その実績をつんでいる．おもな内容は「保育者自身の人間性の向上」「保母免許への1級，2級免許状制度導入」であり，制度確立への研究，討議がなされているというのが現在の方向である．そこで，今回は第1報にひきつづき，保育者養成の中で養成校側にも学生にも大きな試練である実習に視点をあわせてみたい．

実習については，教員養成他大学においても重要な課題のひとつであり，「こなす」ことだけに追われがちである．現状では幼稚園，保育所，施設の多岐にわたる場合1年間フル回転ということもありうる．そのような中で，実習のより効果的な成果を得るためには「現状」への批判だけで問題が解決されるものではなく，まして「効果」など望めない．今年度の全国保母養成セミナーにおいて本間真宏氏（東京家政大学短大部）は，分科会（保育実習）の提案の中で「あくまで学生のために（むしろ学生の……のために）実習はどうであらねばならないかが問われなくてはならない．」と述べている．氏の考えに従えば，「現状の把握」，特に学生側の実習のとらえ方が重要になってくる．

現在本学児童学科3年生において保育園実習（2週間），4年生において幼稚園実習（4週間）が実施されているが，エリクソンの人間周期の考え方によれば，この時期は人間成長，自己確立において重要だとされている．この時期に「理論を実践の場で具体化し，総合し，子どもとのふれあいの中で子どもを理解し，児童福祉施設の内容，機能を理解する．」という大きな課題をもつ実習を学生はどのように乗りこえていくのであろうか．

本論はErikson. E. H. の自我同一性理論を具体化した古沢頼雄（1968）の自我同一性テストを使用し，実習の前後を通してアンケートではとらえることのできない内面の変化をとられることによって，実習のもつ意味をより明確にするのが目的である．また，第1報にひきつづき保育職に対する考え方や問題点についてもあわせて検討を行なった．

調査対象および方法

I　調査対象

調査対象として名古屋女子大学，家政学部児童学科，児童学専攻学生（幼稚園1級取得ならびに保母資格取得希望者）3年生79名，4年生78名とした．

Ⅱ　調 査 方 法

調査方法は質問紙および自我同一性テストにより，４年生は幼稚園実習をはさんで昭和56年９月25日に第１回を，同年10月29日に第２回を実施し，３年生については保育実習をはさんで昭和56年６月18日に第１回を，同年７月10日に第２回を実施した．実習については３年生は初めての実習であり，４年生については前年度保育実習を終え２回目の実習経験である．

Ⅲ　調 査 内 容

質問紙は第１報と同じく「保育職のとらえ方，保育者として必要なこと，保育職に対する適否とその理由」などである．自我同一性テストは38項目からなり（Table 12参照）回答の選択肢は「はい」「いいえ」「どちらでもない」の３肢である．自我同一性を方向づけている選択肢に１点，他の選択肢には０点をあたえている．したがって尺度得点の分布は０～38点にわたっている．38項目のうち35項目については否定の解答が得点になっており，あとの３項目（問７，12，および13）のみが肯定の解答で得点となる．

Ⅳ　自我同一性の確立と同一視

青年期を特長づける心理構造の１つに自己意識の発達が考えられる．この時期に達した人間にあたっては，自己に目を向けることが可能になるとともに主観的，あるいは客観的に自分を切り離して１つの世界として眺めることができるようになる．そこでは以前の全ての経験から一定の成果を自分のものとして統合しようとする試みがくり返される．

このような観点にたって青年期の意義を論じている研究者は数多くいるが，なかでもエリクソン（Erikson. E. H.）はこの時期における人格の発達を自我同一性（ego identity）によって特長づけている．同一性ということばは，社会的な是認のもとに形成されてきた自己像（自己の役割への認識）と個人内におけるそのような自己像の定着を意味している．エリクソンの「人生周期」の考え方によると，人間はその一生を通して，それぞれの発達段階に特有の中心的課題をもち，これらの課題を順次解決していくことによって望ましい精神的成熟が可能であるとされている．これらの課題が順次積みかさねられ，総合されて一応の統合に達し，いわゆる一人前のおとなとみなされる青年期前期の課題がアイデンティティ（自我もしくは自己同一性）の確立ということである．

思春期の危機とよばれる現象は，この時期に一方では急激に出現する生理学的な不安定感の体験ということであり，他方には心理社会的にみて重要な問題が，限られた短い時期に解決を迫り，しかもこれらのさまざまな体験を「自分」というものの中に統合しなければならないことに基づいている．しかし，自我同一性というものが完成するのはむしろ青年後期であるとエリクソンは考える．

結果および考察

結果は表を読みやすくするためパーセントで表示し，検定は得票個数について行なった．

Table 1　あなたが在学している学科が第一志望ですか

	3年生（%）	4年生（%）
ハ　イ	69.6	71.8
イ イ エ	30.4	28.2

Table 2　大学入学の目的は何であったと思われますか　（1個選択）

	3年生（%）	4年生（%）
教養を深める	20.3	37.2
学園生活を楽しむ	20.3	9.0
良い友人を得る	3.8	3.8
学問を研究する	12.7	5.1
就職準備	40.5	34.6
その他	2.5	5.1
わからない	—	1.3
無解答	—	3.8

Table 1〜3 については前回の報告1と同じように，先生になるという目的意識をもって入学する学生が多く，毎年4割ほどの学生が「就職準備」の項目を選んでいる．また，本学を第一志望としている学生は毎年7割ほどいるが，前回報告の保育科系私立短大においては9割の学生が第一志望であると答えている．これは本学が4年制大学であることが関係しているのであろう．前報では「年が進むにつれ第一志望者が増していくと思われる」と見たが，今年の調査を考えあわせると7割が限度ではないだろうか．

Table 3
本学が第一志望でないと答えた者の希望学科

		人数		人数		人数
3年生	国文科	3	家政科	1	福祉学科	2
	心理系	1	本学児教	4	英文科	5
	養護系	1	社会学科	1	言語障害児科	1
	文学部	1	史学科	1		
4年生	福祉学科	6	教育学部	1	国文科	2
	英文科	4	本学児教	2	体育学科	2
	芸術系	1	心理系	3	無解答	1

Table 4
保育学科の志望の理由は何でしょう（1個選択）

	3年生（%）	4年生（%）
保育者として仕事がしたい	47.2	55.4
子供が好きだから	21.8	19.6
将来役に立つことがあるから	25.5	12.5
育児に役立つから	5.5	3.6
他人にすすめられて	—	1.8
その他	—	3.6
無解答	—	3.6

「本学が第一志望でない」と答えた者の希望学科をみると今年も福祉，文化系の希望者が多い．その中で3年生では英文科が第一志望であった者がめだっている．

保育系学科志望者に，本学への入学理由を質問すると「保育者として仕事がしたい．」と答えた者が3年，4年とも多いことがわかる．

保母資格は3年時において，今年度もすべての人が取るつもりでいることがわかる．しかし4年生になると進路もほぼ決定し，保母資格をとらないと答える者もでている．保母資格取得の理由は「就職に有利」「保育職につきたい」などがおもなものである．

Table 5 あなたは卒業までに保母資格を取るつもりですか

	3年生（%）	4年生（%）	前年度 3年生（%）
ハ　イ	100	96.1	100
イ イ エ	—	1.3	—
すでに持っている	—	2.6	—

Table 6 イイエの理由，ハイの理由（自由記述）

	3年生	人数	4年生	人数
イイエの理由		0	理由の解答ナシ	1
ハイの理由	就職に有利	20	就職に有利	11
	保育職に就きたい	24	保育職につきたい	28
	何かに役立つ	12	何かに役立つ	9
	とれる資格はとっておく	7	とれる資格はとっておく	9
	資格をもっていたい	10	資格をもっていたい	5
	自分に必要だから	1	カウンセリングの仕事と結びついている	1
	福祉関係の仕事をしたい	1	4年間の勉強のあかしに	1
	無解答	3	無解答	10

Table 7 をみると今回も前報にひきつづき「卒業後保育職に就きたい」と答える者の比率が高い．Table 8 から今回も実習を終えると「わからない」と答える者が増しているのがわかる．前年

度3年生と比較してみると，今年度3年生も同じような傾向にある．4年生をみると前回保育園実習後，幼稚園希望の比率がへったが（前年度3年生の欄参照）現時点では回復し，幼稚園実習後は81.3％の者が

Table 7　卒業後保育職に就きたいですか

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）	
	実習前（％）	実習後（％）	実習前（％）	実習後（％）
ハ　イ	96.2	93.8	79.5	82.1
イイエ	3.7	6.3	17.9	16.7
無解答	—	—	2.6	1.3

Table 8　保育職へ就きたいと答えた方どこへ勤めたいですか

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		前年度3年生	
	実習前（％）	実習後（％）	実習前（％）	実習後（％）	実習前（％）	実習後（％）
幼稚園	75.0	58.1	80.6	81.3	74.7	56.8
保育所	11.8	17.6	16.1	12.5	18.7	18.5
施設	2.6	2.7	3.2	3.1	4.0	2.5
わからない	9.2	21.6	—	3.1	2.6	17.3
その他	—	—	—	—	—	4.0
無解答	1.3	—	—	—	—	1.2

Table 9　保育職へ就きたいと答えた方いつまで勤めたいですか

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）	
	実習前(％)	実習後(％)	実習前(％)	実習後(％)
生涯の仕事として	27.6	24.3	22.6	21.9
一時やめて子供が大きくなったら	11.8	16.2	40.3	25.0
まだわからない	46.1	48.6	29.0	32.8
結婚するまで	2.6	2.7	—	7.8
出産するまで	11.8	6.8	6.5	12.5
無解答	—	1.4	1.6	—

実習後は81.3％の者が希望している．これは保育所，幼稚園の実習を終え就職が身近に迫っている現在労働条件，社会的地位などのことを考えあわせ，こういう結果が出ているのであろう．Table 8より「保育職に就きた

Table 10—a　保育職をどのようなものだと思われますか（上位3つを選択）

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)		前年度3年生	
	実習前	実習後	実習前	実習後	実習前	実習後
① 子供が好きでなくては勤まらない	2	2	2	2	2	2
② 心身ともに頑健でなければならない	1	1	1	1	1	1
③ しっかりした人生観，教育観がなければならない	4	4	4	4	3	4
④ 重要で社会的に認められている	7	✡	8	8	9	8
⑤ 女性にふさわしい職業である	5	5	5	5	5	5
⑥ 向上心，研究心がなければついていけない	3	3	3	3	4	3
⑦ 対人関係がむずかしい	7	5	6	6	6	7
⑧ 地味であまりめだたない	9	7	✡	✡	8	10
⑨ 高度な専門的技術が要求される	6	6	7	7	7	6
⑩ 無解答	✡	✡	✡	✡	10	8

前年度3年生は現在の4年生．　✡は選択がなかった。　数字は多く選択された順位．

い」と答えた者の８割近くの者が幼稚園に勤めたいと希望している．

Table 9 からは，半数の者が子育ての時期は除いても保育職を生涯の仕事として考えていることがわかる．

Table 10— a の順位をみると今年は，実習の前後で上位項目の変化はみられない．選択された項目から考えれば，早い時期から「保育職とは何であるか」というしっかりした概念ができ上がっていることがうかがわれる．Table 10— b からは比率の変化をみることができるが，３年生において「重要で社会的に認められている」の項目を実習後だれも選択しなかったこと，４年生でもこの項目の比率が少ないことに注目したい．

Table 10— b　　（＊P＜0.05　＊＊P＜0.01　df=1）

	3年生(保育所)		χ^2 検定	4年生(幼稚園)		χ^2 検定	前年度3年生	
	実習前(%)	実習後(%)		実習前(%)	実習後(%)		実習前(%)	実習後(%)
① 子供が好きでなくては勤まらない	27.2	22.5		25.8	25.5		27.1	23.3
② 心身ともに頑健でなければならない	30.7	32.0		32.3	28.6		29.8	32.6
③ しっかりした人生観，教育観がなければならない	11.8	9.0		10.2	12.0		10.7	9.8
④ 重要で社会的に認められている	2.2	—	＊4.94	1.1	0.5		1.8	0.8
⑤ 女性にふさわしい職業である	5.3	5.0		6.5	6.3		7.8	5.1
⑥ 向上心，研究心がなければついていけない	14.9	21.6		18.3	22.9		10.2	20.8
⑦ 対人関係がむずかしい	2.6	5.0		3.2	3.1		4.4	1.7
⑧ 地味であまりめだたない	0.9	0.5		—	—		2.2	0.8
⑨ 高度な専門的技術が要求される	4.4	4.5		2.7	1.0		3.1	3.8
⑩ 無　解　答	—	—		—	—		0.9	1.3

Table 11— a　保育者として必要なもの（上位３つ選択）

	3年生(保育所)		4年生(幼稚園)		前年度3年生	
	実習前	実習後	実習前	実習後	実習前	実習後
① 子供を理解すること	1	1	1	1	1	2
② 子供が好きであること	4	4	4	4	4	5
③ 健康であること	3	1	2	2	2	1
④ 熱意（意欲）があること	2	3	3	3	3	3
⑤ 根気強いこと	10	11	14	13	7	12
⑥ 明朗活発であること	5	6	7	7	5	4
⑦ 責任感が強いこと	8	11	12	10	6	6
⑧ 指導力があること	6	6	12	7	10	11
⑨ 円満な人がら	11	13	6	6	10	12
⑩ 専門的知識・技術があること	9	9	9	11	8	6
⑪ 創造力に富んでいること	14	15	17	✡	9	8
⑫ 社会的常識があること	14	9	7	7	✡	✡
⑬ 研究心があること	7	5	9	5	10	9
⑭ 協調性があること	12	13	5	14	14	✡
⑮ ピアノがよくひけること	✡	✡	15	✡	13	✡
⑯ しっかりした人生感，教育感をもっていること	12	8	9	11	13	10
⑰ そ　の　他	✡	✡	15	✡	✡	✡
⑱ 無　解　答	✡	✡	✡	✡	✡	14

数字は多く選択された順位　　✡は選択なし

保育園実習では，期間が短いこともあり（2週間）どうしても手助け的存在になりやすい．また，実習受け入れ側も労働力として実習生を見ている場合が往々にしてある．これらの理由から学生は，子どもたちの日常生活のせわに追われ教育的な立場にたつ実習を経験することがむずかしい．そのため「保母職は特別の教育をうけなくてもできるのではないか」と感じるのであろう．そのような思いが，いっそうこの項目の選択を阻止しているように思われる．4年生で幼稚園実習を経験して，なお根強くのこっているのは個人的な経験からだけではなく，一般社会的通念にも影響されていると思われる．

Table 11—b　（＊＊P＜0.01 ＊P＜0.05 df=1）

	3年生(保育所)		χ^2	4年生(幼稚園)		χ^2	前年度3年生		χ^2
	実習前(%)	実習後(%)	検定	実習前(%)	実習後(%)	検定	実習前(%)	実習後(%)	検定
① 子供を理解すること	21.9	21.6		20.4	20.8		23.6	20.1	
② 子供が好きであること	10.1	9.0		10.8	10.4		11.6	8.8	
③ 健康であること	18.4	21.6		18.3	19.3		14.7	21.8	＊ 3.88
④ 熱意（意欲）があること	18.9	13.5		14.0	18.2		14.2	13.4	
⑤ 根気があること	1.8	1.8		2.2	1.6		4.9	2.1	
⑥ 明朗活発であること	9.2	5.4		4.3	3.6		8.4	10.0	
⑦ 責任感が強いこと	3.5	1.8		2.7	3.1		5.3	4.2	
⑧ 指導力があること	5.7	5.4		2.7	3.6		2.2	2.9	
⑨ 円満な人がら	1.3	1.4		4.8	4.2		2.2	2.1	
⑩ 専門的知識，技術があること	2.2	2.7		3.2	2.6		3.5	4.2	
⑪ 創造力に富んでいること	0.4	0.5		1.1	—		2.7	3.8	
⑫ 社会的常識があること	0.4	2.7		4.3	3.6		—	—	
⑬ 研究心があること	4.4	7.2		3.2	5.7		2.2	3.3	
⑭ 協調性があること	0.9	1.4		6.5	0.5	＊＊ 9.95	1.3	—	
⑮ ピアノがよくひけること	—	—		1.6	—		1.3	—	
⑯ しっかりした人生感教育感をもっていること	0.9	4.1	＊ 4.76	3.2	2.6		1.8	2.9	
⑰ そ の 他	—	—		1.6	—		—	—	
⑱ 無 解 答	—	—		—	—		—	0.4	

「保育者として必要なもの」についても，今回は実習の前後で上位項目はほとんど変化がみられなかった．「研究心があること」の項目は，検定の結果有意差はみられなかったが3年生，4年生ともに順位が上がっている．特に注目したいのは前年度3年生，現在の4年生の順位である．2年間を通して確実に上がっている．1位から4位の項目も大切であるが，それと同時に大学で学んだことを活用していく能力が必要であるということがわかっていくのであろう．保母養成資料第18号（1981，2）特集：保育学生の意識調査においても「学生の“How to”的志向に，いたずらに迎合せず，むしろ高い次元のもの，すなわちテクニックではなくメソードを探求する姿勢に転換させていくことが，保育者養成教育にとって大切な課題であると思う．」と述べられているが，このような学生の態度を養成校側も大切にし，のばしていくことが重要なのではないかと思われる．

Table 12，Table 13は自我同一性テスト項目と，その結果である．テストの実施前に，筆者らは「各学生とも実習後，差は少なくとも得点は上がるであろう．」と考えていた．しかし，現実には3年生は46.8％の者が，4年生では34.6％の者が実習後得点が下がっている．しかし，

t 検定の結果4年生は「実習後得点が上がる」ことが確認され，ピアソンの相関係数から正の相関がみられることがわかった．このことは4年生において，実習という試練が，少なからず自己形成の一要因になっているであろうことがうかがえる．また，実習前に得点の高い者は，実習後の得点も高いといえる．このテストでは，得点が高いほど自己形成が進んでいると考えられるので，このことは自己形成の進んでいる者ほど試練を乗りこえ，実習で得たものを自分の糧にしていく傾向があるのではないかと思われる．

3年生では，検定の結果正の相関だけしか得ることができなかった．このことは，4年生と同じように実習前に得点の高い者ほど，実習後も高い得点を得ているが，平均点からもわかるように実習の前後でほとんど変化はなく，3年生においては実習がよりよい方向の自己形成の要因にはならなかったと思われる．「保育職について」の項目のところでも述べたように，保育園実習は労働力としての実習になりがちであり，学生は保育園を「子どもをあずかる所」「日常生活の延長線上」と考えるのではないだろうか．そういう実習を経験した実習生たちは自己形成，自己認識などというゆとりすらなかったのではないだろうか．

このテストでは実習を受けなかった者との比較は不可能なので，想像の枠をこえることはで

Table 12　自我同一性尺度項目

No.	項　　目
1	やりそこないをしないかと心配ばかりしている
2	私は立派な人になろうという希望を失いそうになる
3	人から非難されると非常にこたえる
4	すぐまごつく方だ
5	人にもっと好かれるようになりたい
6	何でもうちあけられる人は自分にはいない
7	私の生きがいは人を幸福にすることだ
8	知らない人と会うのは気が重い
9	将来のことがいろいろ心配だ
10	なかなか決心がつかずすごく悩んだことがある．
11	自分ひとりで初めてのことをするのが心配だ
12	人が自分をどう考えていようとそんなことは気にしない
13	つらいことも悲しいことも一人でがまんする
14	自分の考えたことや感じたことを言葉でうまく表わすことができない
15	したいことをあまりやれないでいる
16	自分の心に大きな変化がおこり自分が変わってしまったように思うことがある
17	自分のしたいことが何であるかわからない
18	私の心はとても傷つきやすい
19	自分はごく限られた人としか気が合わない
20	人生のはかなさが身にしみてわかる
21	他人が私のことをどうみているか気になる
22	危険や困難に直面するとしりごみする
23	人の言ったことややったことですぐ気をわるくする
24	どうしてよいか決心のつかないことがよくある
25	ときどき私は全くだめだと思うことがよくある
26	私は生まれてこなければよかったとときどき思う
27	私はいつも本当のことをいうとは限らない
28	あきっぽく根気が続かなかったことが何度も続いたことがある
29	本当に尊敬できる人が自分にはいない
30	「だれも私をわかってくれない私はひとりぼっちだ」と思ったことがある
31	おとなになるのがすごくいやだと思ったことがある
32	自信がないためものごとをあきらめてしまうことがよくある
33	何でもものごとを始めるのがおっくうだ
34	私はかわいそうな人間だ
35	今の自分は本当の自分でないように思う
36	ときどき私は役に立たない人間だと思う
37	一度決めたことでも人からいわれるとすぐ決心が変わってしまう
38	たいていのことで他の人より自分の方が劣っているように思う

きないがテストの結果，アンケートの結果，また学生自身の話を総合してみると，このように考えることができる．

「本学に入学して満足していますか」との質問に対して，大半の者が「満足」「まあまあ満足」と答えており，毎年7割ほどの者が本学児童学科を第一志望にしていることを考えあわせれば，妥当な結果であると思われる．

Table 13　自我同一性テスト
（＊＊P＜0.01 ＊P＜0.05）

	3年生(保育実習)		4年生(幼稚園)	
	実習前	実習後	実習前	実習後
得点範囲	1～29	0～32	0～31	0～33
平　均	14.3	14.4	13.8	15.3
標準偏差	8.0	8.3	7.1	7.7
t 検 定	df=78 t=－0.15		df=77 t=－2.727 ＊	
ピアソンの相関係数	df=77 r=0.744 ＊＊		df=76 r=0.776 ＊＊	

Table 14　本学に入学して満足していますか

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		前年度3年生	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
満足している	11.4	19.0	10.3	14.1	18.4	11.5
まあまあ満足している	44.3	55.8	47.4	50.0	42.5	50.6
どちらともいえない	22.1	20.8	34.6	29.5	29.9	28.7
少し不満	5.2	5.2	6.4	6.4	6.9	3.4
不満である	5.2	1.3	3.8	—	2.3	2.3
無　解　答	—	—	—	—	—	3.5

Table 15　あなたは今，何かなやみごと（不安）がありますか

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		前年度3年生	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
なやんでいる（不安がある）	55.8	48.1	74.4	78.2	49.4	40.2
なやんでいない	27.3	37.7	16.7	15.4	35.6	40.2
わからない	16.9	14.3	9.0	5.1	14.9	16.1
無　解　答	—	—	—	1.3	—	3.5

Table 16　あると答えた方それは何についてですか（自由選択）

	3年生（保育所）		4年生(幼稚園)		前年度3年生	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)
勉学上のこと	17.1	14.3	10.9	5.3	18.3	16.9
健康上のこと	6.6	7.9	1.2	—	8.4	3.4
友人，対人関係	7.9	6.3	4.9	2.6	8.4	8.5
人生観について	5.3	9.5	7.3	6.6	5.6	10.2
就職，将来の進路について	38.2	44.4	65.9	73.7	39.4	47.5
異性の問題について	9.2	3.2	3.7	1.3	8.5	6.8
家族や家庭内のことについて	6.6	6.3	3.7	5.3	5.6	3.4
学費，家計などお金の問題について	—	—	—	1.3	—	—
政治，経済など一般社会問題について	—	—	—	—	—	—
そ の 他	9.2	7.9 (クラブのこと)	1.2	2.6	5.6 (自分の性格 実習の不安)	1.7 (施設実習の不安)
無　解　答	—	—	1.2	1.3	—	—

Table15～17は「なやみごとの有無」「なやみごとの内容」「解決方法」をたずねたものである．特に注目されるのは4年生で，8割ほどの学生が「なやんでいる」と答え，その大半が教育職

への就職についてである．前回の調査と比較すると「就職できるかどうか不安である」「就職難である」などと答える者が多く，具体的には「地元に就職口がない」「名古屋で就職したいが自宅生しかとらない」などなやみを訴える者がある．就職についてのなやみは，友人や家族などまず身近な人に相談する者が多いが，最終的にはすべての者が先生と相談して決定することになる．

就職については，前年度から愛知県内の私立園でも統一テストが実施されるようになったが，就職決定が全体的におそい（2月，3月ということもある）ことも不安を大きくさせていると思われる．

Table 17　不安やなやみをどのように解消していますか（自由選択）

	3年生（保育所）		4年生（幼稚園）		前年度3年生	
	実習前(%)	実習後(%)	実習前(%)	実習後(%)	実習前（%）	実習後（%）
友人に相談する	39.5	49.1	45.1	47.0	42.0	39.2
先輩に相談する	10.5	8.6	3.9	5.1	5.8	5.4
自分で読書等により解消する	5.3	4.3	4.9	1.7	9.3	9.5
先生に相談する	2.6	3.4	3.9	6.8	3.5	1.4
家族に相談する	14.9	21.1	25.5	27.4	18.6	24.3
なりゆきにまかせる	22.8	11.2	10.8	8.4	14.0	17.6
医師に相談する	1.8	1.7	—	—	2.3	—
そ の 他	2.6	0.9	5.9	3.4	4.7 (いろいろな人と相談)	2.7 (自分自身で考える)
無 解 答	—	—	—	—	—	—

ま と め

本学の学生は目的意識をもって入学し，またその目的を全うしようとする傾向がみられる．実習は学生にとって自己成長の一要因となりうるが，受け入れ側や養成校側，学生本人，そのどれか1つでも，歯車がはずれると，実習は徒労に終る危険性をはらんでいる．その危険性を最小限にとどめるためには，養成校側として入学当初より保育者の資質について，学生を目覚めさせる方向づけをしていくことが大切であり，小手先だけの技術に終始するのではなくしっかりした価値感，教育観，および乳幼児を見る目を身につけさせることが重要である．また，受け入れ側との緊密な連絡が必要であり，双方の理解が重要になると思われる．

「社会的地位」については，一般社会的通念という厚い壁が立ちはだかっているだけに困難な問題であるが，最近の傾向として父母の学歴が高くなってきたため，1部4年制卒業の保育者が望まれるようになった現在，本学卒業生のこれからの活躍が，この問題を打開していくことを望んでいる．

終りにのぞみ本調査の検定をするにあたり，多大なご協力を賜わりました本学児童学科湯川隆子先生に，厚く感謝の意を表します．

参 考 文 献

1）全国保母養成協議会：保母養成資料第18号，34～36（1981．2）
2）全国保母養成協議会：保母養成セミナー報告書，63～66（1981．3）
3）全国保母養成協議会：昭和56年度全国保母養成セミナー要旨，41～47（1981）

4）全国保母養成協議会：第20回研究大会発表論文集，47～77（1981）
5）R．I．エヴァンズ：エリクソンとの対話，151～167（1976）
6）依田　新　編：現代青年の人格形成，第4章　金子書房（1968）